

2019年度 在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業
日本人学校におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発
青島日本人学校 日本語指導報告書

【はじめに】

青島日本人学校は、創立 16 周年を迎えた青島日本人会が運営する学校です。今年度から中期目標を「多様性を理解し、自他を尊重しながら切磋琢磨する児童生徒の育成」と改定し、グローバル人材、特にバイカルチュラル人材の育成を要としてその具現化に努めています。また、AG5 の取組を開始し、台湾 3 校の取組を参考にしながら、日本語指導のプログラム開発を行うことになりました。

【学校の願い】

- (1) **児童生徒の実態** 本校の児童生徒は、4 割以上が多文化家庭です。その特徴を強みとして、お互いが切磋琢磨できるよう中国語にも日本語にも力を入れています。日本語指導は、必要な児童生徒の取り出し指導を 3 年間実施しています。しかしその指導内容については担当が日々模索しており、質の高い指導で一人一人の力を伸ばしていきたい、カリキュラムを構築していきたいという願いを持っていました。また、青島には、就学前の幼児を日本語で保育する施設がなく、言葉の獲得の著しい幼児期を、中国語（あるいは英語）で過ごしてきている児童が多いことも、日本語指導が必要な要因になっています。入学する多くの児童は中国語に慣れ親しんでいますが、多文化家庭では十分に日本語に触れることなく幼児期を過ごしています。学校には入学が可能かについての相談が多く寄せられています。
- (2) **在留邦人の減少** 現在青島は、在留邦人が 1700 人前後で、その数は毎年減少傾向にあります。在留邦人の減少は、学校の経営に大きく影響します。減少の要因の一つとして、日系企業が日本人を長期滞在者として中国に派遣し経営するスタイルから、現地の方を管理職とする経営にシフトしていることが挙げられます。本校の児童生徒数は平成 23 年の 118 名をピークに減少し、平成 27 年には 70 名を切りました。日本語指導は児童生徒の実態からだけではなく、在籍数が減少し続ける状況を変えていく手段として実施せざるを得なかったのです。児童生徒、保護者に選ばれる学校づくりを目指したわけです。令和元年の現在、小学部 65 名 中学部 16 名の 81 名（12 月現在）の在籍を確保することができています。しかしながら、在留邦人の減少は、今後も続く見込みであり、楽観視できない状況が続くと思われまます。

【日本語指導の実際】

現在、日本語指導は、個別の取り出し指導、課外の日本語教室を中心に行っています。2 学期からは、AG5 委員の先生方のご助言により、教科の基礎基本の定着が図られるよう、在籍級と日本語教室の指導を関連させた教科指導にも取り組み、効果を上げています。

- (1) **個別の取り出し指導** 取り出し指導は、日本語児童が必要な児童生徒の保護者に、授業の調整、回数、指導者などを確認し実施しています。そして児童生徒の学年や実態に応じて、指導者と担任が相談しながら、指導を継続できるように調整しています。今後の児童生徒の進路選択につい

て共有しながら、現在そして将来のニーズや実態に応じて指導内容を工夫しています。

- (2) **課外授業（小学部 1 年の日本語教室）** 今年度から課外授業として小学部 1 年対象の日本語教室を新たに設置し、週 1 回 45 分間指導を行っています。日本語の理解が不十分と把握した上で入学を許可した複数の児童について、入学前に保護者と面談し、入学後の早い段階で児童が日本語学習に取り組めるようにしました。第 1 回の日本語教室は、4 月 19 日、入学から 1 週間後に実施しました。金曜日 6 校時、小学部低学年の下校後の学習に、集中力が続くか心配しましたが、開始当初から意欲的に取り組む姿が見られました。「みずがのみたいです。」「といれにいつでもいいですか。」の復唱で発音を確認したり、「すきなものはなんですか。」の問答を行ったりして、学校生活にかかわる言葉や文を用いて学習を進めました。日本語教室での学習を重ねるにつれ、日本語への興味も増し、「わたし、日本語だいすき。」と話す児童の姿も見られるようになりました。日本語教室の学習も 3 か月を経過したころ、児童の日本語の力は飛躍的に伸びてきました。学習してきた言葉と文、そして自分の伝えたい気持ちがぴったりと一致するようになってきたことで、自信をもって積極的に学習したり活動したりする様子が増えてきました。

(3) 在籍級の学習を日本語教室で補充、先行して指導

●国語科単元「じどう車くらべ」

在籍級では、説明文を読んで構造（問いと答え）や内容（「しごと」や「つくり」）を把握するという単元目標を達成するために、「じどう車づくり」という言語活動を中心に学習を展開していました。そこで、日本語教室では、教材文の構造や内容の把握については補充する学習、図書資料から車を選んだり「しごと」「つくり」を見つけたりする活動については在籍級より先行して学習することにしました。結果、児童は、在籍級において積極的に「じどう車ずかん」づくりに取り組み、振り返りにおいても、それまで自己評価で付けられなかった◎をつけていました。

●算数科単元「おおきいかず」

主な単元目標は、2 位数についての数え方、読み方、書き方、構成について理解です。一人一人の理解を確実にするために、在籍級の学習を補充する形で取り組みました。在籍級では十のまとまりをつくるのが難しい様子があったため、日本語教室では、一人一人数を唱えたり説明したりしながら、答えを導きだしていました。在籍級でも有効であった iPad を用いることで、作業も楽になり、教科書以外の問題にも進んで取り組みました。在籍級でも、個別の指導が有効な数の学習を、日本語教室で補充することによって、目標の達成が図られる形になりました。

【来年度に向けて】

今回、AG5 事業をチャンスととらえ、学校経営面、指導面での成果が得られるように、AG5 運営指導委員会の先生方や関係する学校と共に、日本語指導を推進していきたいと考えています。本校のプログラム開発へのご支援、ご指導を、これからもよろしくお願いいたします。